

2023年度尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会 事例報告集

第1回小委員会 9月6日（水）・・・別添1

第2回小委員会 12月21日（木）・・・別添2

別添1－1：鳩待山荘・休憩所のリニューアル【東京パワーテクノロジー株式会社】

※小委員会後に新たに制作されたチラシを資料として掲載します。

別添1－2：ふくしま尾瀬魅力発信強化事業【福島県】

別添1－3：新宿御苑における国立公園PRイベントの開催【環境省】

別添1－4：尾瀬国立公園プロモーションポスターの制作【環境省】

別添2－1：山小屋魅力化と宿泊者のデッドタイムを活用した保全活動推進事業【尾瀬山小屋組合】
(観光庁「サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業」)

別添2－2：観光庁補助事業の進捗について【片品村・片品村観光協会】

別添2－3：魚沼尾瀬ルート活性化委員会【魚沼市】

別添2－4：会津沼田街道PR事業【檜枝岐村】

別添2－5：登山道整備の取り組みについて【尾瀬ガイド協会】

別添2－6：尾瀬の利用のあり方に関する普及啓発冊子の制作【環境省】

※ 第1回・第2回ともに報告があった事例については、第2回のもを掲載しています。

尾瀬 鳩待山荘

2025年初夏 RENEWAL OPEN

尾瀬の玄関口である鳩街山荘・休憩所が生まれ変わります



登山者の疲れを癒す、全館洋室の山荘

自然と調和した開放的な空間の休憩所

豊かな自然をゆっくり堪能しながら、
くつろぎのひとときを・・・



 東京パワーテクノロジー株式会社

環境事業部 尾瀬林業事業所

TEL 0278-58-7311

・受付時間 9:00 ~ 17:00 (定休日:土・日・祝日)
・4月下旬 ~ 10月中旬については無休

※尾瀬の情報はこちらから



山荘・休憩所のご案内

当社は、3つの山荘及び、2つの休憩所を運営しております。



東電小屋 尾瀬沼山荘 至仏山荘 大清水休憩所 鳩待休憩所

※旧鳩待休憩所は、2024シーズンは営業していません。

これまでの山荘のイメージを覆した

現代スタイルの上質な滞在環境

山荘の窓から望む広大な自然と美味しい料理で疲れを癒す、そんなひとときをおもてなしします

プライバシーへの配慮や、清潔感あふれる客室をご提供します。

これまで山荘利用を悩んでいたお客さまにも、安心してご宿泊いただける山荘となっています。

山荘

Guest room 全室洋室、多様な滞在スタイルを実現

- ・大部屋を廃止し、個室を配置 (2 名部屋 7 室、4 名部屋 3 室)
- ・大部屋の代わりにドミトリー (12 名室) を配置
- ・共同風呂方式ではなく、シャワー室を設置



Cafeteria 開放的で明るい吹き抜け空間、緑に囲まれたテラス空間



現在工事中の鳩待休憩所

現在、基礎工事と鉄骨工事が完了しました。冬季の閉山期間中は現地に入れないため、工事は5～11月に限定されます。雪解けになりましたら、工事再開予定です。

※旧鳩待休憩所は、2024シーズンは営業しています。



休憩所

Cafeteria, Shop, Exhibition

食堂・カフェ、売店、展示エリアが一体の休憩所



尾瀬へようこそ

群馬・福島・新潟・栃木の4県にまたがり、至仏山や燧ヶ岳など2000m級の山々に囲まれ、希少かつ多様な動植物の生命をはぐくむ尾瀬は、四季折々に変容する美しい自然で私たちを魅了します。

日中のハイキング・登山はもちろん、山小屋に泊まり、大自然の幻想的な夕暮れ、夜になると降り注ぐ満天の星空、そして早朝の朝霧に包まれた神秘的な景色など、宿泊しなければ体験できない尾瀬を、ぜひご堪能ください。

当社では、企画型ツアー（団体様向け尾瀬ツアー）や研修プログラムなど実施しています。お客様のご要望に合わせてサポートいたしますので、お気軽にお問合せください。



Spring



Summer



Autumn



Winter



ふくしま尾瀬の取組について (令和5年度)

ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

2023年9月
福島県自然保護課

R5年度ふくしま尾瀬の取組について

福島県自然保護課

ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

福島の宝である尾瀬を大切に保護する一方、多くの人びとに訪れていただきたく、福島県側から尾瀬に入山する一帯及びその地元町村を含めて令和4年度からふくしま尾瀬魅力発信強化事業を展開しています。

体験型のイベントや情報発信を行い、尾瀬を訪れるきっかけ作りをおこなっています。

▲「ふくしま尾瀬」

福島県側にある尾瀬国立公園とその玄関口となる檜枝岐村及び南会津町の自然や文化の体験を目的としたネイチャーツーリズム。

※平成30年～令和3年度まで実施していた「スタートアップふくしま尾瀬事業」の後続事業であり、今年で2年目となります。



R5年度
イベント

2023年6月15日～2023年10月31日

尾瀬国立公園の福島県側の玄関口である檜枝岐村や南会津町と、その周辺の自然・文化などを体験するネイチャーツーリズム「ふくしま尾瀬」。

東北最高峰の峰々、ダイナミックな三湯の滝、空を映す尾瀬沼、遠望に咲く季節の花々、山上の沼原に舞える会津駒ヶ草など、「ふくしま尾瀬」の豊かな自然は、かねてより「唯一無二」の後写像としても愛され続けてきました。一期一会の出会いを永遠に記録し、その感動をより多くの方々と共有したい。「福島県×山と溪谷社」がプロデュースする今シーズンの「ふくしま尾瀬」は、写真と映像。そして、次世代をテーマに展開します。YouTube、動画クリエイターと歩くツアー、親子で楽しむツアー、フォト＆ムービーコンテストなど、イベントが盛りだくさん！

「ふくしま尾瀬」の新たな魅力をぜひ思い出しの1ページに加えてみてください。

1 イベントの構成

- ① オンラインムービー&フォトコンテスト
- ② ツアー2本（動画教室ツアー・親子自然体験ツアー）

① ふくしま尾瀬フォト&ムービーフェス2023



■ フォト & ムービーコンテスト

- 応募部門 「絶景！ふくしま尾瀬・山岳自然部門」
「また来たくなる！思い出・地域の魅力部門」
「動画部門」
- 各 賞 各部門ともゴールド、シルバー、ブロンズ賞1
特別賞「ふくしま尾瀬」賞1
特別賞「ヤマケイオンライン」賞1
Instagram賞5（フォトコンテストのみ）



山旅案内所

10月15日 発表会YouTube配信

① 昨年の発表会の様子



発表会



ふくしま尾瀬写真フェス2022 松本浩さん 写真講座もフォトコンテスト賞品授賞式「ふくしま尾瀬」

YouTubeオンライン配信



山旅案内所



配信の様子

受賞作品

- 応募部門 「絶景！ふくしま尾瀬・山岳自然部門」
「また来たくなる！思い出・地域の魅力部門」
- 各 賞 各部門ともゴールド1、シルバー2、ブロンズ3
特別賞「ふくしま尾瀬」賞1
特別賞「ヤマケイオンライン」賞1
Instagram賞5

応募作品数/総数 631点

(特設サイトへの投稿 236点、Instagramへの投稿 395点)

※尾瀬沼ビジターセンターに令和5年11月まで展示しています。



絶景！ゴールド



魅力！ゴールド



Instagram賞



②-1 動画教室ツアー

- 講師 山下真弓氏・JEMMA氏
- 参加者 一般参加者 7名
尾瀬ガイド 1名
スタッフ

● 行程 (2泊3日)

- 1日目 御池→上田代→御池
- 2日目 御池→沼山峠→尾瀬沼→沼尻→尾瀬沼
- 3日目 尾瀬沼→小淵沢田代→御池→村内散策

9月上旬
ツアーの様子を
YouTube配信



ふくしま尾瀬動画撮影教室ツアー YouTuberの山下真弓さんとJEMMAさんと歩く！尾瀬沼ツアー

YouTuber、動画クリエイターである2人の講師と一緒に尾瀬を歩きながら、動画撮影テクニック、編集テクニックを学び、ツアーの3日間の中で、公開できるくらいのショートムービーを完成させます！

日程：2023年7月22日（土）～7月24日（月）2泊3日
募集人数：8名

参加費：26,000円

講師：山下真弓さん、JEMMAさん

ガイド：尾山美和さん（尾瀬認定ガイド）

※参加者募集期間が終了しました。

[ツアー詳細を見る →](#)

1日目

集合



動画教室

2日目



動画教室

星空観察会

3日目



動画教室

②-2 親子自然体験ツアー

- 講師 四角友里氏
- 参加者 一般参加者 10名（親子5組）
尾瀬ガイド 2名
スタッフ

● 行程 (1泊2日)

- 1日目 山旅案内所→会津駒ヶ岳→駒の小屋泊
- 2日目 駒の小屋→中門岳→檜枝岐村昼食

9月中旬
ツアーの様子を
YouTube配信



親子自然体験ツアー 人気の山小屋泊！四角友里さんと 尾瀬認定ガイドと会津駒ヶ岳へ

小学校中・高学年以上のお子さんを主母親子を対象とした自然体験ツアーです。ご自身も子育て中という四角友里さんから、山の話、道具の話を聞きながら、人気の山小屋に泊まり、初夏の会津駒ヶ岳の自然を満喫します。ご家族にとって、夏休みの一暮の思い出になります。

日程：2023年7月20日（火）～7月21日（水）1泊2日

募集人数：10名（親子複数組）

参加費：おひとりあたり10,000円

ゲスト：四角友里

ガイド：尾山美和さん（尾瀬認定ガイド）

※参加者募集期間が終了しました。

[ツアー詳細を見る →](#)

1日目

集合



会津駒ヶ岳登山

2日目



3 その他情報発信

●「ふくしま尾瀬」ホームページ



●SNS配信 (Twitter・Instagram・Facebook)



■新宿御苑における国立公園PRイベント（ナショナルパークフェスマウンテンフェス）の開催結果

北アルプス
×
尾瀬

National Park Mountain Fes

開催報告



イベント概要

北アルプス・尾瀬の国立公園に触れて魅力を知る

「National Park Mountain Fes」は、国立公園の自然や地域に貢献するという保護と利用の好循環を通じて、「ネイチャーポジティブ」に繋げていくことの重要性を発信するイベントです。

開催地は都会の中心で自然を満喫できる新宿御苑。首都圏から3時間程度でアクセスでき、山麓から山岳エリアの地域文化が交わり歴史ある「中部山岳国立公園」と「尾瀬国立公園」をテーマに、トークセッションやワークショップなどのコンテンツを通じて深く掘り下げます。

■開催概要

イベント名：National Park Mountain Fes

開催時期：2023年6月24日(土)- 25日(日)

実施場所：新宿御苑インフォメーションセンター及び周辺屋外エリア

主催：関東地方環境事務所・中部山岳国立公園管理事務所

Day1 6/24 (Sat)

Time	Talk Session 尾瀬国立公園の自然と文化	Guided Walk 尾瀬国立公園の自然と文化	Workshop 尾瀬国立公園の自然と文化
10:00			
11:00	11:00-12:00 Divide (Shokusan)	11:00-12:00 尾瀬国立公園 第1回 第1回	
12:00			
13:00	13:00-14:00 Event (Shokusan)	13:00-14:00 尾瀬国立公園 第2回 第2回	13:00-14:00 尾瀬国立公園 第2回 第2回
14:00			
15:00	15:00-16:00 Event (Shokusan)	15:00-16:00 尾瀬国立公園 第3回 第3回	15:00-16:00 尾瀬国立公園 第3回 第3回
16:00			
17:00			

Day2 6/25 (Sun)

Time	Talk Session 尾瀬国立公園の自然と文化	Guided Walk 尾瀬国立公園の自然と文化	Workshop 尾瀬国立公園の自然と文化
10:00			
11:00	11:00-12:00 Divide (Shokusan)	11:00-12:00 尾瀬国立公園 第1回 第1回	
12:00			
13:00	13:00-14:00 Event (Shokusan)	13:00-14:00 尾瀬国立公園 第2回 第2回	13:00-14:00 尾瀬国立公園 第2回 第2回
14:00			
15:00	15:00-16:00 Event (Shokusan)	15:00-16:00 尾瀬国立公園 第3回 第3回	15:00-16:00 尾瀬国立公園 第3回 第3回
16:00			
17:00			

1、取組の目的

- ☑ 【ビギナー戦略】 まだ尾瀬を訪れたことのないターゲットに向けて、都内で尾瀬国立公園のPRイベントを開催
- ☑ 【ファン戦略】 PR内容は尾瀬の魅力発信に留まらず、自然保護運動の原点としての理解を深める場に

2、実施内容

■National Park Social Action Talk Session @アートギャラリー／レクチャールーム

自然環境の問題にとどまらず、社会課題に対してさまざまな角度からアプローチを行っている方々に集まっていただき、福祉、ボランティア活動、山歩き、共感資本主義など、幅広いテーマで語っていただきます。また、次世代を担う若者からの提言と地域を担う若手政治家からの地域づくりの意気込みなども発信。観光、環境、文化、暮らし。国立公園を軸に「ネイチャーポジティブツーリズム」という新しい概念は今後どう進化していくべきなのか。自然環境だけでなく多くの社会課題解決のヒントになるテーマを通じて「国立公園の未来像」を考えます。

■National Park Mountain Experience Booth @屋外ブース

長い時間をかけて守られてきた地域の山岳景観と、その中で育まれた文化を素材として、各地域の特産品の販売ブースや尾瀬の植物を使ったワークショップ、山小屋グルメを提供するキッチンカー等が出展します。

■Meet National Park Store & Exhibition @アートギャラリー

2023年6月24日（土）から7月30日（日）にかけて、中部山岳国立公園と尾瀬国立公園、それぞれの地域の多様な表情を切り取ったパネル展示を行います。その景色を愛する方々のエッセイや、いま抱えている問題などを写真を通じて発信。国立公園の魅力のみならず、そこにある課題についても関心を持っていただき、何か自分がアクションできないか、と考えるきっかけづくりを目的としています。

■Meet National Park Store & Exhibition @JAPAN GOLD LABEL

中部山岳国立公園パートナー「飛騨産業」による地域資源を活用したクラフトや国立公園オフィシャルパートナー「PARKS PROJECT」オリジナルアパレル等、国立公園に関するオリジナルグッズなどを販売します。

■ナショナルパークフェスマウンテンフェス開催報告

3、成果 ー来場者数ー

★イベント開催日来場者数

24日（土）...4,131人

25日（日）...3,796人

6月6日からインフォメーションセンターへの来場者の導線を誘導STARTした関係もあり来場者全体は20~40%アップしているが、イベント開催時は通常土日の2~2.5倍の数字となった。

6月インフォメーションセンター来場者数

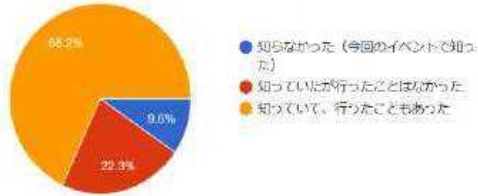
月日	入館者数(人)	その日の観入観出者数(人)	入館者比率 D/E(%)			
2023/6/10	841	4,950	17%			
2023/6/11	1,526	10,838	14%			
2023/6/16	1,727	10,144	17%			
2023/6/18						
2023/6/19	990	5,682	17%			
2023/6/20	894	5,588	16%			
2023/6/22	623	2,832	22%			
2023/6/23	1,187	4,835	25%			
2023/6/24	4,131	10,312	40%			
2023/6/25	3,796	10,435	36%			
2023/6/26						
2023/6/27	1,139	4,409	26%			
2023/6/28	1,112	4,279	26%			
2023/6/29	941	4,427	21%			
2023/6/30	789	3,086	26%			
合計	35,481					

※ピンクライン：比較対象の6月の土日

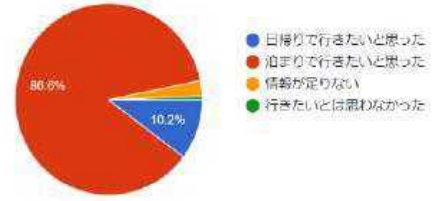
黄色ライン：イベント本番（23日はプレス向けイベント開催日）

3、成果 —参加者の反応 1—

尾瀬国立公園のことを知っていましたか？また行ったことはありましたか？
157件の回答



今回のイベントで、尾瀬に行ってみたいと思いましたか？
157件の回答



◆ビギナー戦略の成果

「尾瀬を知らなかった」・「知っていたが行ったことはなかった」
50名（全体の31.9%）



全員が「尾瀬に行ってみたいと思った」を回答

日帰りで行ってみたい（11名）/泊まりで行ってみたい（39名）

◆リピーター戦略のポテンシャル

「尾瀬を知っていて、行ったこともあった」
107名（全体の68.2%）



98%が「尾瀬に行ってみたいと思った」を回答

日帰りで行ってみたい（6名）/泊まりで行ってみたい（98名）

3、成果 —参加者の反応 2—

イベントのご意見&ご感想をアンケートから抜粋

楽しく旅に出たい気持ちが倍増しました。

今回のイベントを通じて国立公園の活動や問題点を知る事ができた。
今後もこのようなイベントを通じて国立公園の事を知りたい

尾瀬に行った時に、歩荷さんを見かけて興味を持ったところに、
このイベントに参加して、歩荷さんとお話しできてよかったです！

尾瀬を環境保護目線で知れてよかった

地元の物販をもっとたくさん増やして欲しい！！

もっと大規模で行って欲しい！！！！

東京で開催していただきありがとうございます。
益々尾瀬熱が高まりました。

トークセッションの内容がとてもよかったです。
これからも考えていきたいと強く思いました。
なにができるのか、どう意識を変えていけばいいか考え、できること
からしたい。
尾瀬の木道なおし隊の活動に加わりましたが、その活動にも確信を
いただきました。

行ったことがないので、今度足を運んでみたいと思う
きっかけになりました。

4、イベント総評

- ☑ 【ビギナー戦略の成果】尾瀬を知らなかった・行ったことがない人たち全員が尾瀬を訪れたいと感じた
- ☑ 【ファン戦略の成果】尾瀬の課題について知ることができた嬉しさについての言及があった
- ☑ 【リピーター戦略のポテンシャル】東京でのPR活動は、リピーター戦略のポテンシャルがあることがわかった
エリアを飛び越えて尾瀬の魅力を伝えていく事へのニーズを再認識できた
- ☑ インフォメーションセンターの来場者も通常の土日の2倍～2.5倍ほど入館者が増加
- ☑ 継続実施、東京開催の声が多数

イベント参加者は全体的に高評価

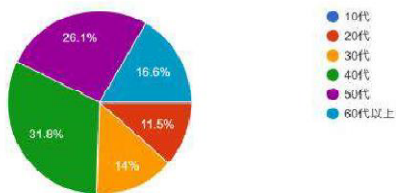
ビギナー、リピーター、ファンそれぞれの尾瀬への意識ステージをボトムアップさせ
尾瀬来訪意欲をこのイベントを通して高めることができた

その他参加者アンケート結果については別資料〇〇

■ イベント参加者データ

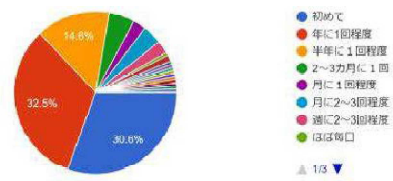
年齢

157件の回答



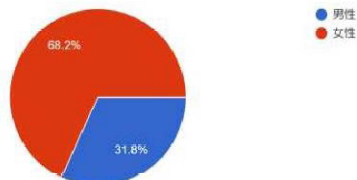
新宿御苑を訪れる頻度を教えてください

157件の回答



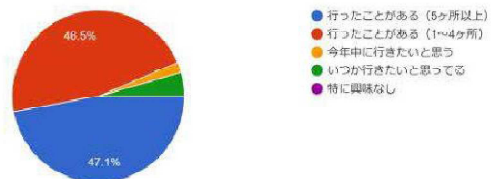
性別

157件の回答



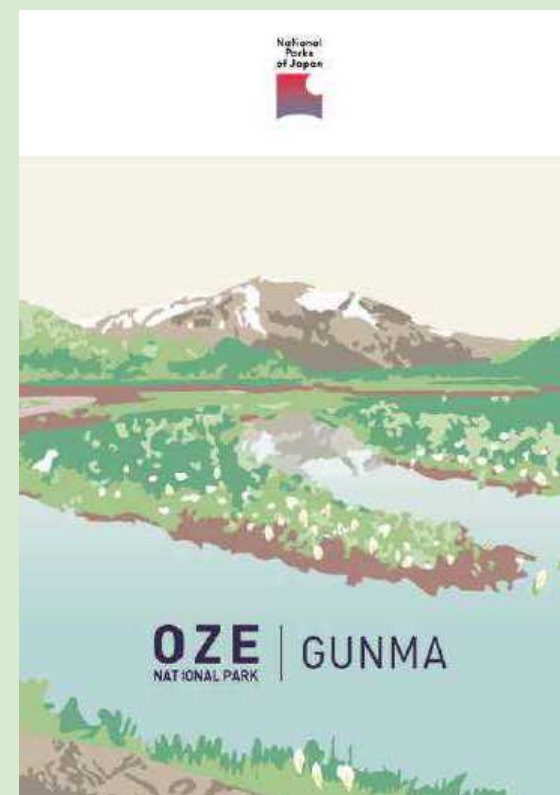
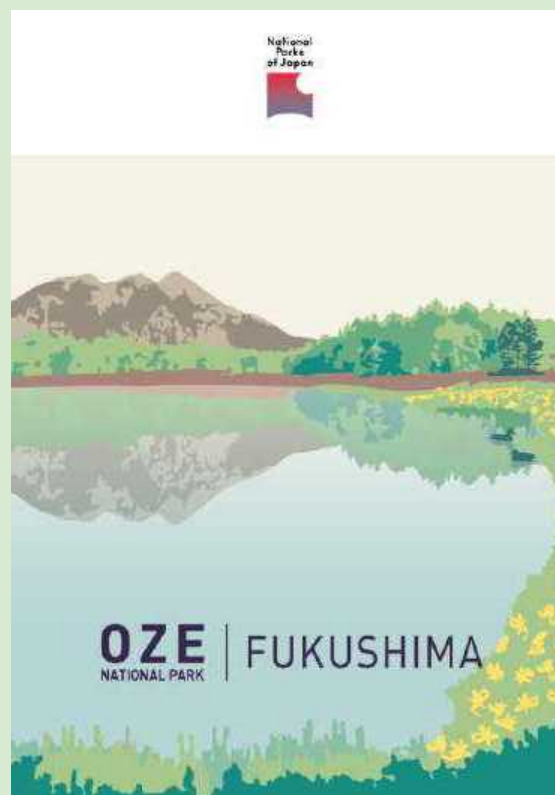
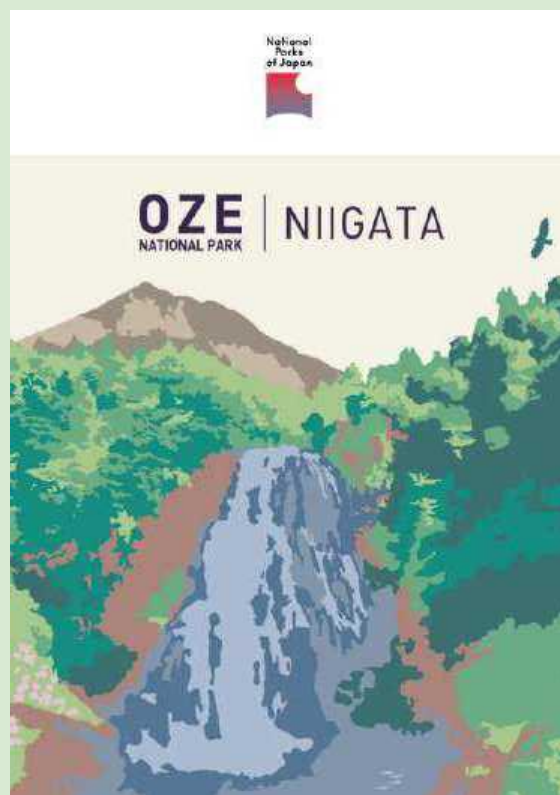
国立公園に行ったことはありますか？

157件の回答



■尾瀬国立公園プロモーションポスターの制作について

尾瀬国立公園のプロモーション、適正な利用の推進、普及啓発等を目的として、令和4年度にポスターデザインを制作しました。同ポスターデザインの使用について仕様規定にまとめていますので、使用をご検討の場合は関東地方環境事務所国立公園課又はお近くの自然保護官事務所までお問い合わせください。



サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業
 「山小屋魅力化と宿泊者のデッドタイムを活用した保全活動推進事業」

12月21日（木）小委員会報告資料

■事業概要

尾瀬国立公園は日本最大の山岳湿原を有し、その成り立ちから「日本の自然保護活動の原点」といえる場所だが、2つの危機を迎えている。

- ①営みの危機：利用者・担い手共に高齢化。さらにコロナ禍を受けて96年の最盛期（65万人）から入山者数は1/6（10.6万人）まで減少、コロナ禍を抜けた今年は17.3万人まで回復したが最盛期の1/4止まり
- ②自然の危機：温暖化やニホンジカによる食害で湿原環境が悪化（尾瀬特有の高山植物・花々の減少）
⇒このままでは尾瀬の観光運営と自然を維持することが困難

↓

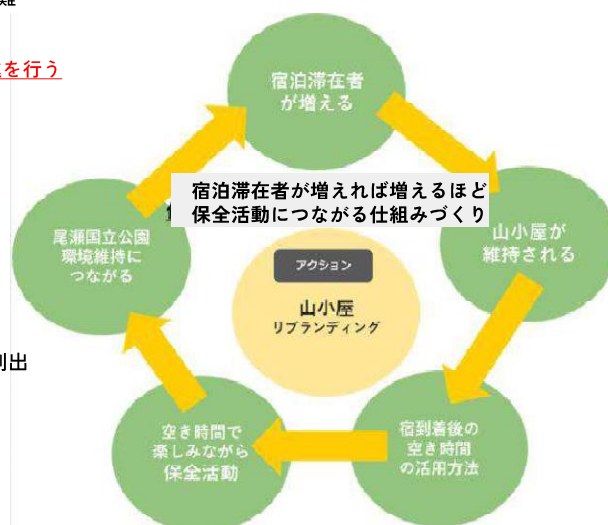
- ・ 専門知識とネットワークを有するメディアを活用し、山小屋魅力化
- ・ 宿泊者を増やし、滞在時間内のデッドタイムを活用した保全活動推進を行う

■実施体制

代表主体：一般社団法人 片品村観光協会
 その他：尾瀬桧枝岐村温泉観光協会・尾瀬山小屋組合
 公益法人尾瀬保護財団・片品村・桧枝岐村・株式会社ADDIX

■具体的な事業内容

- 1、サステナブルな観光コンテンツの造成等
 - ①山小屋リブランディング（価値向上・魅力化）
 - ②来訪者の尾瀬理解向上や参加できる自然保全コンテンツの創出
- 2、好循環の仕組みづくり
 - ③尾瀬の自然保護に関するストーリーの理解促進
- 3、受入体制の強化
 - ④情報発信／冊子&山小屋情報サイトの作成



◆全体の進捗状況

①山小屋リブランディングについて

「至仏カフェ（至仏山荘隣接の休憩所）」：

- ・木道廃材を活用したインテリア設置によるカフェ空間のアップデート提案
- ・コアな尾瀬のファンと尾瀬のビギナーに対する新メニュー開発・提案



「龍宮小屋」「尾瀬沼ヒュッテ」：

コーチングや関係者からのヒアリング調査で判明した尾瀬の滞在価値である”宿泊し木道で佇む時間”を山小屋起点で経済的価値に変換するため山岳用のマットを「ごろんマット」とし、貸し出しのトライアルを龍宮小屋にて実施



②来訪者への尾瀬の理解度向上や参加できる自然保全コンテンツの創出

- ・11月1日～2日ランドネ読者を招きモニターツアーを実施
- ・参加者の声をもらいながら来年度の販売に向けてのガイドラインなどの準備

1、見本園の散策バックレンタル

※レンタル費用に自然環境保護の寄付金を含む



※イメージ（星野リゾート貸出バック）

2、鹿ナイトサファリ（夜間散策）のガイドライン化

※シカの食害の理解を深める



シカナイトサファリ参加シール

3、登山道整備ツアーガイドライン化

※登山道整備の必要性・重要性の理解を深める



事業名：四季絶景！尾瀬国立公園のこれまでにない楽しみ方で世界に誇れる山岳リゾートを目指す！ 【群馬県片品村】
～OZE MOUNTAIN RESORT～

総事業費：15,000千円
(支援見込額：12,500千円)

事業の概要 「尾瀬=本格的な登山」のイメージを覆す、四季を通じた新たな楽しみ方を提供することで世界に誇れる山岳リゾートを目指す

- ①最繁期でも訪れる人が少ない尾瀬「アヤメ平」へ「富士見下～富士見峠」ルートを新たなモビリティを使って行くもう一つの尾瀬体験コンテンツ
- ②2026年冬季五輪の新種目に登録され、海外で注目を集めるSKIMO (Ski Mountaineering) を体験ツアーとして冬の尾瀬で特別実施
- ③仮想空間「OZEVERSE」を立ち上げ、VRを通じて尾瀬の四季を体感するコンテンツとして提供することで、異なるシーズンの再来訪を喚起する

実施体制

■申請主体：片品村むらづくり観光課 ■(一社)片品村観光協会：コンテンツ開発 ■片品村振興公社株式会社：商品販売/交通拠点 ■尾瀬アウトドアスポーツ振興会(富士見下活性化委員会)：コンテンツ運営 ■片品村商工会：アウトダイニング提供の村内飲食店のとりまとめ ■片品村民宿旅館組合連合会：宿泊提供 ■東京パワーテクノロジー：山小屋関連 ■関越交通株式会社他村内交通事業者：交通関係 ■株式会社JTB 群馬支店：コンテンツ開発・運営補助・販売 ■NPO法人武尊根BASE：コンテンツ開発・運営 ■一般社団法人KATASHINA MOUNTAINS：コンテンツ開発・運営 ■株式会社Fun Japan Communications：PR・販売 ■株式会社上毛新聞社：VRコンテンツ制作・運営

活用する資源 尾瀬国立公園、アヤメ平、富士見小屋跡、富士見下～富士見峠ルート、廃スキー場、百名山(至仏山、武尊山他)

体験コンテンツ・イベント等の内容

①尾瀬「アヤメ平」「田代原」へ新たなモビリティ(圧雪車)を使って行くもう一つの尾瀬体験コンテンツ
・近年、利用するハイカーがほぼおらず、活用されていなかった富士見下～富士見峠～アヤメ平・田代原。特に冬季は積雪により立ち入ることさえできなかったこのルートに「新たな尾瀬の楽しみ方」を提供する。圧雪車とスノーシューを使った移動に地産の食材を使ったアウトダイニングやオリジナルランチを提供するプレミアム間あるガイドツアーとして新規実施。
・道の駅尾瀬かたしなを拠点として、タクシーを使った2次交通を提供。(JR沼田駅からの送迎も含む)

②冬の尾瀬国立公園や廃スキー場で開催するオリンピック出場を目指す日本のスキーマットッププレイヤー同行のSKIMO体験ツアー

③尾瀬をバーチャルに体感できる、これまでになかったVRコンテンツ「OZEVERSE」の提供

インバウンド誘客・消費拡大効果 アジア圏を中心としたインバウンド誘客見込み数 160名×58,750円 / 支援見込額12,500,000円

特別性(新規性も含めて記述)

- 徒歩でしか入ることが出来なかった「尾瀬」に新たなアクティビティ感覚あふれる移動手段を活用して楽しく快適に入山する。
- 「尾瀬ヶ原」ではなくかつて「天上の楽園」と呼ばれ環境保全活動の始まりとなった「アヤメ平」を新たな観光の中心とする。
- 通常立ち入ることのない冬の尾瀬を舞台に、海外で注目を集めるSKIMOをフックにした新たな冬アクティビティを展開。

本事業の活用の必要性及び持続可能な観光への寄与

- 入山者の高齢化と減少が進む「尾瀬」に、既存のハイカーではないインバウンド、富裕層など新規客の取り込みを図ることで、今後とも観光地としての「尾瀬」を保全する。
- 営業時間外(早朝)・クローズ後のスキー場の活用、廃スキー場の再利用、規制が厳しい尾瀬国立公園の利用を新たに活用するコンテンツを展開、これにより冬シーズンを延長することで観光消費を喚起し、経済的にも持続可能な観光地域を目指す。

主なスケジュール

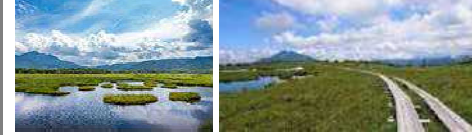
2023年12月下旬～ SKIMOコンテンツ販売開始
2023年12月～ 仮想空間OZEVERSE (Vket)尾瀬VRコンテンツ実施開始
2024年1月下旬～ 圧雪車体験コンテンツ販売開始

他支援事業への申請状況について インバウンドコンテンツ造成支援事業(1次公募)に「申請中」(※一般社団法人片品村観光協会として以下申請)尾瀬国立公園をラグジュアリーに楽しむ。もう一つの尾瀬 天空の楽園「シン尾瀬」誘客事業

	申請
国・地方公共団体等所管事業 (3千名以上or高付加価値化)	1
民間企業等支援事業 (3千名以上)	
民間企業等支援事業 (高付加価値化)	2



【十分に活用されていない新たなルートの活性化】



【かつて天上の楽園と言われたシン尾瀬アヤメ平】



【富士見下～富士見峠をe-bikeや圧雪車で登る】



【地場産品を自然の中で】 【特別な宿泊体験】



【新しい冬コンテンツSKIMO】

事業費：10,000千円
(補助見込額：7,000千円)

事業の概要 尾瀬に新たなルート開発！かつて「天空の楽園」と謳われた「アヤメ平」(＝シン尾瀬)を楽しむ新コンテンツの造成
 大自然「尾瀬」のもう一つの見どころ「アヤメ平」を含む高原湿原は写真などでよく見る「尾瀬ヶ原」とは違う知る人ぞ知るシン尾瀬
 ①最繁期でも訪れる人が少ない尾瀬「アヤメ平」へ「富士見下～富士見峠」ルートを使って行くもう一つの尾瀬体験コンテンツ
 ②「尾瀬＝本格的な登山/アクティビティ体験」と一線を画する高付加価値でプレミアムな「快適な冒険」という新しい自然の楽しみ方の提案

実施体制
 ■(一社)片品村観光協会：実施主体 ■片品村むらづくり観光課：国立公園管轄 ■片品村振興公社株式会社：商品販売/交通拠点 ■尾瀬アウトドアスポーツ振興会(富士見下活性化委員会)：コンテンツ運営 ■片品村商工会：アウトダイニング提供の村内飲食店のとりまとめ ■片品村民宿旅館組合連合会：宿泊提供 ■東京パワーテクノロジー：山小屋関連手配 ■関越交通株式会社他村内交通事業者：交通関係 ■株式会社JTB 群馬支店：コンテンツ開発・運営補助、インバウンド向けPR・販売

過去の観光庁事業を活用して取り組んだ内容
 令和3年度『地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業』
 関東唯一の「特別豪雪地帯」冬の片品村で農家自ら運転する貸切タクシーガイドで名物雪中りんご取り出し、郷土料理作りから白銀尾瀬の絶景散策、夏場は立ち入りできない尾瀬エリアを圧雪車で移動するまでプレミアム体験周遊プランを造成

本事業にてインバウンド向けに改善・ブラッシュアップする点
 ①通常マイカー規制されている富士見下～富士見峠～アヤメ平のルートで**e-bikeを使ったガイドツアーとして実施**
 ②ツアー内で地元産の**高原野菜を使ったオリジナルメニューをアウトドアダイニングで提供**
 ③道の駅尾瀬かたしなからツアーの発着点まで**タクシーによる送迎**をツアーに含める
 ④1972年に全国の国立公園に先駆けて「ごみ持ち帰り運動」が始まったアヤメ平を舞台に特別なガイドツアーを通じ、尾瀬が歩んできた環境保全のストーリーを伝え、参加者に環境保全に対する気づきを与えるような**インタープリターとしての専門ガイドを育成**
 ⑤尾瀬ヶ原まで本格的に楽しみたい**インバウンド客向けに山小屋のシングル利用またはドームテントでの宿泊を加えた宿泊旅行商品として造成**

インバウンド向け販路基盤整備やプロモーション実施内容
 ①造成した商品を片品村観光協会ホームページ内や村内事業者ホームページ、**海外OTAで販売できるようなプラットフォーム(JTB BOKUNを予定)を導入**
 ②造成した商品を英語翻訳し、**インバウンド向け企画商品(サンライズツアー)として造成販売**
 ③造成した商品の魅力を伝える記事を現地目線で制作し、**日本好きコミュニティWEBサイトとFacebookでPR**

アピールポイント(独自性、地方誘客や観光消費拡大への効果など)
 ①徒歩でしか入ることが出来なかった「尾瀬」に、新たなアクティビティ感覚あふれる移動手段e-bikeを活用して楽しく快適に入山する。かつその入山ルートは通常マイカー規制されている富士見下～アヤメ平であり、高付加価値である
 ②これまで尾瀬の大自然の中で食事を提供するコンテンツはほぼない中、地域の飲食店・宿泊施設と連携して、地元特産の高原野菜を使ったプレミアムメニューとして高単価で提供することで、地域に面的に経済効果を波及させる
 ③ストイックなイメージのあった国立公園で、逆にラグジュアリーに楽しむことで生まれた収益を持続可能な活動へ還元する。

スケジュール
 ■6月～7月下旬 コンテンツの造成、ガイド養成、ファミツアー、販促物制作、台湾へのオリジナル記事配信
 ■8月初旬～10月初旬 本体験コンテンツの実施(約2か月)、期間中の継続プロモーション

これまでに活用した観光庁事業	
看板商品創出事業	
域内連携促進事業	○
誘客多角化事業	
その他観光庁事業(令和2年度以降)	

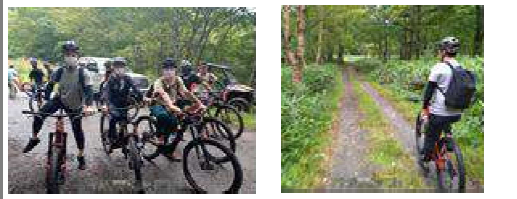
※上記当てはまる場合はボックスに○記入



【十分に活用されていない新たなルートの活性化】



【かつて天空の楽園と言われた裏尾瀬アヤメ平】



【富士見下～富士見峠をe-bikeで登る】



【地場産品と特別な宿泊体験の提供】

●片品村ガイド講座

第1回：9/25実施済み、第2回：12月8日実施済み

※ツアー紹介動画・チラシ用の写真・動画撮影：10月下旬 完了

●ツアー紹介動画の制作（12月～1月）

①30秒動画：完成、②3分程度動画：現在製作中

●ツアー紹介チラシの制作（12月～1月） ※12/12時点で表面校了、裏面制作中

●多言語案内（指さし案内冊子を予定）の制作（12月～2月）

●ホームページの制作（12月～2月）

●備品購入（12月～2月）

e-bike 2台／ルーフテント・オーニングセット／ダイニングセット／AI翻訳機 5台

●タリフ（料金表）の完成（12月～1月） ※1/19最終版の提出期限

●販売プラットフォーム（JTB BOKUN）の導入（1～2月）

●台湾向けツアー紹介記事配信WEB・Facebook（2月）

●事業報告（2月） ※最終2月29日まで

【9月25日開催／第1回 片品村ガイド講座 実施報告】



<参加者アンケート集約結果> 回答数9（※うち1名未回答項目あり）

（1）第1講座「地方創生と観光振興」（JTB紺野）

「①とても満足」6名（66%）／「③普通」2名（22%）／「④やや不満」1名（11%）

（2）第2講座「ガイディング技術 基礎を振り返ろう」（JTB紺野）

「①とても満足」4名（44%）／「②ほぼ満足」2名（22%）／「③普通」2名（22%）

（3）第3講座「先輩ガイドのお話」（ロッチまつうら 松浦さん）

「①とても満足」5名（55%）／「②ほぼ満足」3名（22%）

（4）午後のe-bike実技（プロライダー板垣さん）

「①とても満足」8名（88%）

<参加者> 10名

沼野健補／吉田賢史／桑野智和／

松井勇樹／大島大／木村昭裕／高塚仁央

（かたしな高原スキー場） 澤／天田／平山

<その他のご意見（一部抜粋）>

・e-bikeのスキル向上が必須。メカニカルな知識も知りたい。／お客様の年齢層やレベルに合わせたガイド対応が大切だと感じた。／松浦さんからお伺いしたようなこれまでの片品村のストーリーを知ることができる話がもっと聞きたい／インバウンドを受け入れる上で英語対応の課題を感じる／インバウンド受け入れのための交通手段（無料周遊バス等）の検討が必要／実技の講習がとにかく役に立った／アドベンチャーツーリズムの国内の成功事例が知りたい

[9月25日開催／第1回 片品村ガイド講座 実施報告]



JTB紺野



ロッチまつうら 松浦さん



実技講師の板垣さん



午後の実技講習



e-bikeの操作を学ぶ



e-bikeで富士見峠へ

[9月25日開催／第1回 片品村ガイド講座 実施報告]



日時：2023年9月25日（月）09:30～17:00

時間 □実施内容□

<午前>

午前：座学

09：00 ・参加者受付開始

09：30 ・開講ごあいさつ

片品村観光協会会長 梅澤村長

・全体説明

片品村観光協会

09：45 ・第1講座 テーマ『地方創生と観光振興』

JTB紺野

10：30 ・休憩

10：40 ・第2講座 ガイディング技術 基礎を振り返ろう！

JTB紺野

11：30 ・第3講座 先輩ガイドのお話

ロッチまつうら 松浦 和男 様

12：00 昼食休憩

[9月25日開催／第1回 片品村ガイド講座 実施報告]



日時：2023年9月25日（月）09:30～17:00

時間 □実施内容□

午後：実技

<午後>

- | | | |
|-------|-------------------------------|--------------------|
| 12:40 | ・講座 e-bike（マウンテンバイク）ガイドの基礎 | 講師：板垣奏男 様 |
| 13:00 | ・尾瀬高原ホテルへ各自移動（※駐車場所の指定あり） | |
| 13:40 | ・尾瀬高原ホテル敷地内でe-bikeツアー乗り方・技術講習 | 講師：板垣奏男 様（サポート大森様） |
| | 講習後、e-bikeで富士見下～富士見峠ルートを視察 | |
| 16:50 | ・連絡事項 | 片品村観光協会 |
| 16:55 | ・閉講 | 片品村観光協会 |

【12月8日（金）】第2回 片品村ガイド講座 開催報告

開催内容

■開催日時：2023年12月8日（金）

9時30分～17時00分

（9時00分開場）

■開催目的

- ✓片品村の新しい魅力・素材（e-bike）を知る・学ぶ
- ✓ガイド技術の基礎を学ぶ・振り返る
- ✓ガイド業＝観光業 片品村の観光振興について考える機会を提供する
- ✓インバウンド地方誘客事業（実施主体：片品村観光協会）を活用するため、
これからの片品村のインバウンドの受入環境整備についても考える機会を提供する

■参加人数：11名

- ①沼野健補さん②吉田賢史さん③松井勇樹さん④大島大さん⑤高塚仁央さん⑥星野尊人さん⑦片柳圭介さん
⑧齋藤敦さん⑨天田雄也さん⑩五十嵐建さん⑪館山美和さん



[第2回 片品村ガイド講座 午前]



日時：2023年12月8日（金） 09:30～17:00

時間 □実施内容□

<午前> 会場：片品村文化センター 会議室

午前：座学

09:00 開場

09:30 開講のご挨拶・全体説明

片品村観光協会

09:45 第1講座 テーマ『地方創生と観光振興／アドベンチャーツーリズム』

講師：JTB群馬支店 紺野 宏 氏

10:50 休憩

11:00 第2講座 テーマ『先輩ガイドのお話』 講師：ロッジまつら 松浦和男 氏

12:00 昼食休憩と移動（各自でかたしな高原スキー場管理センター前へ移動）



[第2回 片品村ガイド講座 午後]



日時：2023年12月8日（金） 09:30～17:00

時間 □実施内容□

<午後> 会場：かたしな高原スキー場

午後：実技

13:30 かたしな高原スキー場管理センター前へご集合

13:40 かたしな高原MTBパークでe-bikeのメカニック講習とライディング講習

※講師：板垣 奏男 氏、大森 弘明 氏

16:50 連絡事項

片品村観光協会

16:55 閉講のご挨拶

片品村観光協会



[12月8日開催 第2回 片品村ガイド講座 アンケート報告]

＜参加者アンケート集約結果＞ 回答数10／満足度5段階評価

（1）第1講座「地方創生と観光振興」（JTB紺野）

「①とても満足」9名（90％）／「②ほぼ満足」1名（10％）

（2）第2講座「先輩ガイドのお話」（ロッチまつら 松浦和男さん）

「①とても満足」8名（80％）／「②ほぼ満足」2名（20％）

（3）午後のe-bike実技（メカニック・ライディング）（プロライダー板垣さん・大森さん）

「①とても満足」9名（90％）／「②ほぼ満足」1名（10％）

＜その他のご意見（一部抜粋）＞

また春に実技を学ぶ場を作ってほしい／ツアーガイドとしてMTB業界を盛り上げていきたい／

松浦さんの話は毎回聞いてもとても役に立つ／片品村でのアドベンチャーツアーを各エリアごとに

つなげて取り組みができるよう考えていきたい／日光方面に抜ける林道を活用できるとよい／

村内ツアーにつなげたい／e-bikeの構造が海外と違う（ブレーキが左右逆）のでガイドの知識と対応できる車両が必要では／資格取得に向けた講義も実施してほしい／アドベンチャーツアー

の講義は今後の活動を上で参考になった／尾瀬を管理する会社として自然との兼ね合いを考慮しながら取り組みたい／とても有意義なプログラム構成だった／松浦さんの生きた話、紺野さん

の国内事例、データの説明、e-bikeのメカニック講座が役に立った／単価が高いツアーを任されるよう色々な観点から技術を身に着けたい／e-bikeのライディング講座は年1回でやってほしい／

e-bikeを使ったインバウンドツアーのガイドを是非したい／観光の可能性を感じた

尾瀬の環境保全や利用促進に向け、四者が連携

令和 5 年 10 月 10 日、尾瀬入り口の一つである小沢平登山道の保全活動に取り組む尾瀬ルート活性化委員会、国立公園オフィシャルパートナー企業の奥只見観光株式会社及び三条印刷株式会社と新潟県側唯一の玄関口となる魚沼市の四者により尾瀬の保全と利用促進に向けた会談を開催。



(左) 三条印刷株式会社社長、(中央) 魚沼市長、(右) 尾瀬ルート活性化委員会会長



(左) 四者による連携を確認



(右) 三条印刷株式会社が取組む「OZE BOARDWALK project」により、尾瀬ルート活性化委員会へ 236,155 円が寄付された。

会津沼田街道PR事業【檜枝岐村】

この街道は会津と上州を結ぶ交易路として400年の歴史がある古道です。福島県側からは「沼田街道」と呼び、群馬県側からは「会津街道」と呼ばれていました。

かつて尾瀬沼三平下付近に物資の交換場所としての交易小屋があり、主に檜枝岐村側からは会津の酒や米が、片品村側からは塩や油が運ばれ物々交換を明治初頭頃まで行っていたようです。

檜枝岐村と片品村を結ぶ車道は現在もなく、「会津沼田街道」は2つの村を結ぶ唯一の「街道」であり、尾瀬国立公園の魅力の一つであり、この歴史ある街道に片品村にもご協力をいただき、令和3年度から3ヶ年事業で会津沼田街道の利用促進を行ってきました。

◆令和3年度

◇プロモーション動画を制作し情報発信を行った。

ブナに癒される新緑の時期での制作を行った。

(5～8月：制作、9～10月：編集、11～1月：配信)

◇ガイドプログラムを作成するためのモニターツアーを実施して結果を分析した。(参加者：夏ツアー9名、秋ツアー8名)

◆令和4年度

◇プロモーション動画を制作し情報発信を行った。

ブナが輝く紅葉の時期での制作を行った。

(9～11月：制作、11～12月：編集、12～1月：配信)

◇ガイドプログラムを作成するためのモニターツアーを実施して結果を分析した。

◆令和5年度

◇2年間制作した街道のプロモーション動画を活用した配信用動画を作成し、YouTubeによる広告配信を行った。また、街道のプロモーションに特化したランディングページを作成し、Googleによる広告配信も行った。

◇これまでの撮影で得たプロモーション素材を活用し、魅力を詰め込んだ街道のコンセプトブック「尾瀬へ」を片品村と共同で作成した。

登山道整備の取り組みについて（尾瀬ガイド協会）

- 2022～2023年にかけて、笠ヶ岳登山線において、関東地方環境事務所の請負業務として登山道整備を実施。
- 近自然工法による登山道整備技術を採用を行い、踏圧等によりダメージを受けた生態系の復元を目指す。
- 2023年度中に登山道整備事業を実施するための法人を設立し、2024年度以降登山道整備等の事業展開を検討。

登山道整備の様子



令和5年第2回尾瀬ガイド協会理事会

2023/12/12 10:00～11:30 Webにて

理事 18 (17) 監事 2 顧問 6 オブザーバー 2 事務局 3

開会のあいさつ	会長 石塚照久
議事	会長 石塚照久
1. 役員人事報告	事務局 桂田直樹
2. 各委員会および事務局活動報告	
I. テキスト委員会活動報告	委員長 小林慎治
II. 認定審査委員会	委員長 片柳圭介
III. 広報委員会	委員長 佐藤倫子
IV. 事務局	事務局 桂田直樹
3. 2023年度尾瀬ガイド協会認定試験結果および認定	事務局 小林慎治
4. 休会・更新・認定期間の変更について	委員長 片柳圭介
5. 新規組織立ち上げについて	事務局 桂田直樹
6. その他	

利用APの普及啓発について普及啓蒙冊子／ページ構成

- 尾瀬国立公園における保護と利用の好循環のあり方について、公園利用者に広く周知することを目的とした広報素材を企画・デザイン中。
- ビジターセンターや山小屋、必要に応じてイベント等で配布することを予定。



【構成案】

- 尾瀬国立公園とは
- 増加するニホンジカと植物の食害
- 気候変動による自然環境の変化
- 尾瀬の山小屋がいま悩み、抱えていること
- 木道の必要性和整備
- いま、行われている取り組み など

沼尻公衆トイレの再開について

檜枝岐村

資料2-6

沼尻トイレの重要性

- 尾瀬沼～尾瀬ヶ原間の歩道で唯一のトイレ
 - 尾瀬沼周回の中継地点
- ⇒尾瀬を歩くには欠かせない位置のトイレ

トイレを再開するために

- 民間の山小屋が設置・管理してきたがコロナ禍により2020年から3シーズン連続の休止
- 2023年から檜枝岐村営として管理していくことになった



沼尻公衆トイレの再開について

檜枝岐村

沼尻トイレの抱える課題

○再開に伴う再整備費

事業費 27,500千円

国5割、県4割、村1割

事業内容

便槽14基取替、木道整備、ソーラー発電機整備、水源整備、空輸費他

○インフラがなく溜まったし尿をヘリコプターで空輸搬出して処理場へ

○収入はトイレチップと県の負担金のみ
支出は清掃費、し尿空輸費、し尿処理費、消耗品費等 ※不足分は村が負担



休憩所とトイレ



トイレ外観（ヘリポート）



トイレ内部



トイレ床下（カートリッジ）

新たな沼山峠のあり方について

沼山峠については、これまで、展望確保のための通景伐採や会津沼田街道の一部としての活用等、検討が進められてきた。この度、これまでの検討成果の具体化に向けて、改めて尾瀬国立公園としての位置づけ、尾瀬の自然的・歴史的背景を整理した上で、新たな沼山峠のあり方を示すこととした。

1. 沼山峠の特徴

- 尾瀬で2番目に入山者の多い入山口（沼山峠口）から登りはじめて、最初に到達する休憩ポイントであり、尾瀬国立公園の利用上重要な地点。
- 江戸時代の山火事によって失われた森林が再生している途上であるため視界が開けており、周囲の山々とともに、これから向かう尾瀬沼も望め、ハイカーの期待が高まる箇所。
- オオシラビンからなる樹林のなかにあり、尾瀬を代表する森林景観として、その自然的価値は高い。国立公園特別保護地区、森林生態系保護地域保存地区、特別天然記念物等に指定。
- 峠を通過する道は、かつては会津と上州を結ぶ街道となっており（会津沼田街道）、沿線には史跡もみられる。

2. 現状の課題

- 沼山峠には、ハイカーがゆっくり休憩できるだけの施設・環境が整備されておらず、スペースの問題もあり素通りしてしまうハイカーも少なくない。
- 森林再生に伴い、尾瀬沼が見えづらくなったことから、展望を楽しむ場所としては認識されにくい。一方で、森林としての自然的・景観的価値が高く、保護対象となっている。
- 沼山峠や森林の自然的・歴史的価値を伝える解説等が無く、ハイカーはその重要性を理解しづらい。ガイドツアー等においても十分に活用されていない可能性がある。

3. 新たな沼山峠のあり方

1、2を踏まえ、現地調査を行い、ハード・ソフト両面の対策を検討した結果、新たな沼山峠は、「会津沼田街道の歴史を伝えつつ、沼山峠から尾瀬沼までの唯一の休憩スペースとして、ハイカーがのんびり快適に休める場所」であることが望ましいと考えられた。また、昨年10月には現地検討会を実施し、いただいた意見を踏まえ、休憩スペースの整備イメージを具体化した。これを踏まえ、以下の対策を総合的に行うことで、尾瀬全体の魅力向上につなげていく。

●歩道事業の付帯施設である休憩スペースの改修（別資料）

- 既存デッキの改修、休憩スペースの拡張と支障木伐採、安全管理上の枯れ枝の剪定（既存植生に配慮しつつ、必要最小限の伐採・剪定とする）
- 自然的・歴史的価値の解説標識

※再生途中の森林（歩道の南側）の保護（伐採しない）

●その他沼山峠以外の取組等

- 登山道沿いのベンチ、標識の整備

・会津沼田街道魅力向上推進プランによる取組の支援や新たな利用施策の提案

4. 沼山峠休憩スペースの改修スケジュール

沼山峠休憩スペース改修については、歩道設置者である関東地方環境事務所と地元の檜枝岐村が、当該国有林を所管する関東森林管理局やその他の関係者と相談しつつ検討し、手続き・整備を進める。

【スケジュール】

R5年 6月 30日：関東地方環境事務所、関東森林管理局、檜枝岐村の3者による現地確認

7月～8月：沼山峠休憩スペース改修イメージ（案）の検討

10月 6日：尾瀬国立公園協議会構成員及び関係者を対象とした沼山峠休憩スペース改修に係る現地検討会

10月～12月：現地検討会でいただいたご意見の検討及び休憩スペースの改修イメージの具体化

R6年 3月 4日：尾瀬国立公園協議会

3月～：休憩スペース改修に係る各種手続きを開始

並行して、休憩スペースの拡張の測量・図面作成、支障木調査により休憩スペースの改修に必要なデータを収集する他、解説標識の設置等の利用関係の取組を進める。

尾瀬国立公園協議会設置要綱

(目的)

第1条 今後の尾瀬の保護と利用のあり方を取りまとめた「新・尾瀬ビジョン」の進行促進、進行管理及び実現を目指すとともに、参加型管理運営体制を構築するため、尾瀬国立公園協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の構成等)

第2条 協議会は、別表に掲げる関係機関及び関東地方環境事務所長が委嘱する委員をもって構成する。

- 2 協議会に議長を置く。
- 3 議長は、互選で選出するものとする。

(議長の職務)

第3条 議長は協議会の会務を掌理する。

2 議長に事故あるとき、又は議長が欠けたときは、議長があらかじめ指名した構成員が、その職務を代行する。

(招集)

第4条 協議会の招集は、関東地方環境事務所長が行う。

(議事の公開)

第5条 協議会の議事は公開とする。ただし、構成員の総意により非公開とすることができる。

(代理出席)

第6条 関係機関のうち行政機関及び山小屋組合は、やむを得ない事情により協議会に出席できない場合において、代理の者を指名し、出席させることができる。

(関係者の参加)

第7条 議長は、議事運営上必要があると判断した場合は、議事に関係する者を協議会に参加させることができる。

(事務局)

第8条 協議会の事務をおこなうため関東地方環境事務所に協議会事務局を置く。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、平成20年1月18日から施行する。
この要綱は、平成25年8月6日から施行する。
この要綱は、平成29年3月8日から施行する。
この要綱は、平成30年3月22日から施行する。
この要綱は、令和5年1月30日から施行する。

尾瀬国立公園協議会 構成員

関係機関

行政機関	
1	環境省関東地方環境事務所長
2	林野庁関東森林管理局計画保全部長
3	福島県生活環境部長
4	栃木県環境森林部長
5	群馬県環境森林部長
6	新潟県環境局長
7	檜枝岐村長
8	南会津町長
9	日光市長
10	片品村長
11	魚沼市長
財団	
12	公益財団法人尾瀬保護財団
土地所有者・管理者	
13	三井物産株式会社サステナビリティ 経営推進部グローバル環境室
14	東京電力リニューアブルパワー株式 会社水力部水利・尾瀬グループ
15	東京パワーテクノロジー株式会社
観光協会	
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会
17	南会津町観光物産協会館岩支部
18	一般社団法人日光市観光協会湯西川 ・川俣・奥鬼怒支部
19	一般社団法人片品村観光協会
20	一般社団法人魚沼市観光協会
山小屋組合	
21	尾瀬山小屋組合 組合長
22	尾瀬山小屋組合 副組合長
地元自然保護・環境教育・ガイドの団体	
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会
24	公益財団法人日本野鳥の会栃木県支 部
25	片品山岳ガイド協会
26	新潟県自然観察指導員の会
その他団体	
27	公益財団法人日本自然保護協会
28	尾瀬ガイド協会

委員

有識者	
29	長橋 良隆 (福島大学教授)
30	加藤 峰夫 (横浜国立大学大学院教授)

※順不同